難波っ子

令和３年度１０月号
尼崎市立難波小学校
校長　難波佳代子

多様性を認め、自立と共生の社会を

緊急事態宣言が延長となり、体育参観や自然学校・修学旅行などが延期に、連合体育大会や市の音楽会が中止になるなど、子どもたちの学習の場がいつも通りに設定できないことが残念です。保護者の皆さんには９月の緊急時に引き渡し訓練を行わない中での引き渡しとなりましたが、対応していただきありがとうございました。学校でも今回のことを踏まえて十分に緊急事態に備えて振り返りと改善を行いました。このような制限の中でも、子どもたちは感染防止のルールを守って、前向きに学校生活を送っています。「手洗い・換気・ソーシャルディスタンス・マスク・思いやり」特に**「思いやり」**について始業式に話しました。「感染防止のルールは自分の命を守るだけでなく、あなたの周りの家族や友達・大切な人の命を守る行動です。こんな時だからこそ人を思いやり、支え合う行動をとってください。」と。給食も前を向いて黙食しています。接触しない運動や遊びを工夫しています。リコーダーや鍵盤ハーモニカの代わりに打楽器を、歌唱の代わりに聴く学習を行っています。意見の交流は話し合いではなく、ロイロノートや付箋でします。できることを工夫して学習や学校生活を進めています。ご家庭でも、ご理解の上、引き続きの感染対策と声掛けをよろしくお願いします。

さて、先月号の東京オリンピックに続き、東京パラリンピックでも学びと感動がたくさんありました。パラスポーツは多種多様で知れば知るほどおもしろいと感じました。また、パラリンピアンは自分の持っている能力を研ぎすまし最大限発揮するための努力をするとともに強靭な精神力で困難を乗り越え自立しているから輝いている。そして選手を支える人たちとの信頼関係がものすごい。ブラインドマラソンの金メダリスト道下美里選手が**「仲間がいれば可能性は無限大！**・・・苦手なことはいっぱいだが、１人でできないことは２人で、２人でできないことは３人とたくさんの仲間を作ることで様々なことができた。夢も叶え可能性が広がった。」と語っていました。ほとんど視力がない道下さんは一人では走れない、ガイドランナーの伴走で42,195㎞を走る。「きずな」と呼ばれる伴走ロープを互いに握り、歩調を合わせて疾走する。ガイドランナーはレースの状況を把握し、道下さんの調子を確認しながら勝負に挑んでいく。ガイドランナーは「一緒に戦う競技者」だ。表彰台にも一緒に上がる。お互いが尊敬し信頼し合い、可能性を無限に広げている。伴走ロープ以上の**「きずな」**でつながっている。ガイドランナーの志田さんが、「障がいを持った人と健常者が一緒に輝けるということを、理解してもらったと思う」とレース後話されていました。パラリンピックに関わっている全ての人からたくさんのことを教えてもらいました。これからの時代は自分さえよければいいという考えでは社会が成り立ちません。**自分を大切にする、人を大切にする。そして、互いの個性を認め合ってともに生きていく**にはどうすればよいか。子どもたちとともに大人も考え行動していかなくてはなりません。